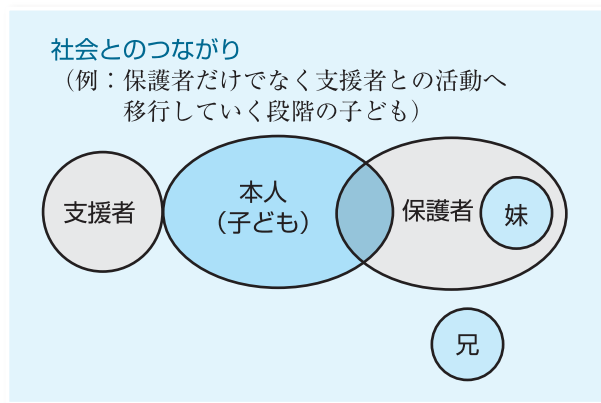


第二節 指導方法・教育環境

第六項 家庭や地域生活を支える工夫

1. 保護者と一緒に将来を見据えた計画を立てる

家庭や地域生活を支える工夫をするに当たって最も大切なことは、学校、あるいは教師が保護者や関係者と協力して支援を進めていくことだと考えます。保護者と共に家庭や地域生活を支える工夫について話し合っていく際には、社会とのつながりが、個々の実態や年齢に応じて常に変化していくことをふまえることが重要だと思います。例えば、子ども（本人）、保護者、兄弟姉妹、支援者などと社会との関係を図示するなどして、子どもの生活の現状を確かめながら現在、ちょっと先、将来を見据えて話し合いを進めてはどうでしょうか。



(図1) 子どもと社会とのつながりの様子

また、話し合いのポイントとしては、次のようなことが考えられます。

- ①学校以外の専門機関や近所の人など、身近な支援者を探す
- ②子どもの良いところを見ていく、あるいは客観的な意見を言ってくれる人を見つける
- ③少しでも視線を変えて、育てる楽しさを感じる
- ④一緒に楽しめることを、一日の流れのなかで探してみる
- ⑤気になる行動は、今すぐ対応しなければならないことか？将来にわたって問題になるか？を考慮して対応する
- ⑥子どもの行動の変化の原因になりそうなものを考える
- ⑦予定の変更は、日常生活では起こり得るので、柔軟に対応できるようにする

また、人とのやり取りの中で学ぶという経験を積むことで、成長したときに、人からの援助を受けやすくなり、結果としてより豊かな生活へとつながることを伝えていくことが大切です。

第二節 指導方法・教育環境

以上のポイントをおさえた上で、次の視点から整理できればと思います。

- 親だからできること（情報を積極的に出せるように。できる限り感情的にならずに伝える。）
- 親しかできないこと（子どもの代弁者である。子育てにあたっては、専門家の知識・技術に基づく意見を取り入れ、実生活で使っていけるものにしていく。）
- 人に任せること（どうしても一人で何もかも抱え込んでしまう危険性がある。だからこそ、思い切ってうち明けたり、話したりすることが必要である。）

さらに保護者が一人で抱え込まないために相談者をつくることを一緒に考えていきましょう。相談者になる人は、必ずしも専門家ではなく身近な人が望ましい場合もあります。要は客観的に見てくれる人、筋のとおった見方をしてくれる人が相談者となる必要があります（親同士でも良いでしょう）。

2. 保護者が取り組みやすい家庭療育プログラムを作成する

特に幼児期や学齢期の子どもをもつ家庭では、多くの出来事が新しい経験となります。家庭での支援に関する話し合いの際には、できる限り専門用語を使わず分かりやすく表現することが重要です。具体的な療育のイメージをもてるようなガイドブック等を作成し、提供することもよいと考えています。

また、学校での指導と同じように、家庭での療育も、記録を取ることが大切です。保護者との協力の下、記入できる課題分析表など（前項の図4「お風呂掃除のお手伝いをするための課題分析シート」参照）を提案して記録をしていきます。記録することは、子どもへの対応の仕方を客観視できるなど、その考え方を見直すきっかけとなるからです。

3. 家庭・地域での療育と学校教育

保護者は、入学時に、学校と通園施設等との環境の変化に戸惑うことがあります。教育内容の違いなど、今までとのギャップに悩むことも少なくないかも知れません。また、担任とうまく話せないと感じ、すれ違いになることがあるかもしれません。保護者との信頼関係を築きながら、事実に基づいた話し合いをすることから始めることが大切ではないでしょうか。

以下、国立久里浜養護学校で平成15年度に行った事例を紹介したいと思います。

第二節 指導方法・教育環境

事例

小学部第一学年の男子。表出のコミュニケーション手段は動作であり、いわゆる自傷行動やうなり声をあげる等が日常的に見られました。

家庭では、話し言葉での指示により、決まった活動の流れで行動していることが多く、自分の思いがとおらなかったり、状況が分からず混乱したりすると、いわゆる他傷行動を行うことが多く見られました。興味・関心が短時間で移り変わりやすく、よく動き回っていました。また、感覚レベルでの遊びが多く見られました。

保護者は、子どもの行動をどのように理解したらよいかに悩まれており、その場での対処に追われていました。長期的な展望に立った対応の仕方を考えることが難しい様子でした。また、本児に対する父親と母親の対応の仕方が違っていました。

ステップ1 生活地図を作成する

保護者からの聞き取りや、家庭訪問時などを利用して家庭や地域生活の現状を調査しました。

(STEP 1 生活地図参照)

ステップ2 家庭生活スケジュールの情報を収集する

放課後のスケジュールを中心に、スケジュールにそった情報を集め、問題となる行動を分析し、その対応策について検討しました。色の付いた部分がスケジュールの主な変更点です。

(STEP 2 家庭生活スケジュール参照)

ステップ3 家庭支援計画を作成する

ステップ1、ステップ2の情報に基づいて、家庭支援計画を作成しました。本人だけではなく、保護者、兄弟姉妹への支援も含めた支援計画です。

(STEP 3 家庭支援計画参照)

文献

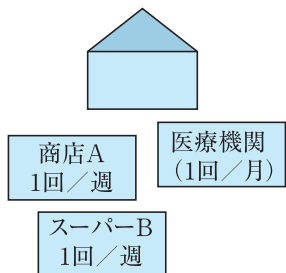
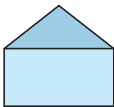
佐久間栄一・奥政治・永田努・沼澤聡子・本井健太(2004) 自閉症の児童の特性に応じた教育支援の在り方に関する研究開発－個別の課題学習を中心とした指導パッケージの作成等を通じて－. 教育実践研究報告 (21), 国立久里浜養護学校.

中田洋二郎(2002) 子どもの障害をどう受容するか?家族支援と援助者の役割?.子育てと健康シリーズ17, 大月書店.

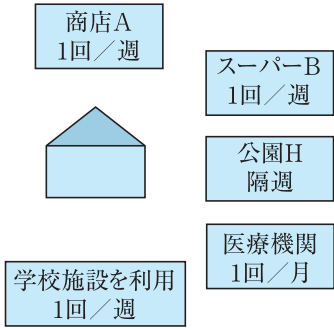
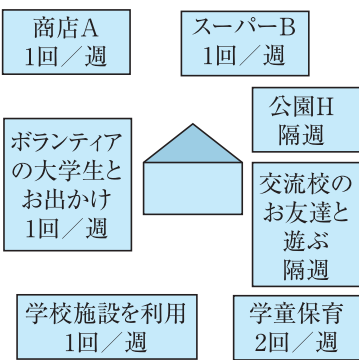
東京 I E P 研究会(2000) 個別教育・援助プラン. 財団法人安田生命社会事業団.

第二節 指導方法・教育環境

STEP 1 生活地図


現在の生活（4月）		3年後の生活
	<p>現在の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし（4月） 	
	<p>将来の希望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし（4月） 	

月 日	経過コメント
4月18日	・家庭訪問をして現在の生活の実態把握をした。
6月2日	・商店やスーパーの買い物は、場所と買う品物を対応させて利用するよう提案し、実施。子どもにとって買い物の目的が明確になるようにした。
8月26日	・夏休みに入った直後より自傷行動が頻発。 ・保護者が学校の施設を利用して放課後を過ごすことを提案→1回/週、年度末まで継続中。
9月5日	・近所の海岸の散歩を提案。
9月10日	・近所の神社への散歩を提案。 ・9月下旬より、おう吐が頻発。
10月3日	・学校で利用している公園Hの活用を提案。1回/週実施。
12月20日	・家庭でのおう吐（注意喚起）がおさまった頃、外部施設（学童保育）及びボランティアの活用を提案。
3月18日	・来年度からの利用も考えて、学童保育を見学する。

現在の生活（3月）		3年後の生活
	<p>現在の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援者を得て、母親の精神的安定を図ること。（3月） 	
	<p>将来の希望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レスパイトサービスを利用し、家庭内の時間的ゆとりを得る。（3月） 	

第二節 指導方法・教育環境

STEP 2 家庭生活スケジュール

時間	活動		現在の課題	課題の背景	対応計画（スケジュールの変更等）
	子どもの動き	保護者の動き			
13:30	勉強	勉強の手助け 学校のかばんの整理	おう吐（9月下旬～） 	<ul style="list-style-type: none"> ・母親への注意喚起 ・自己刺激行動 	<ul style="list-style-type: none"> * 外部の専門家による相談を受ける。 * 注意喚起の手段を絵カードやジェスチャーに置き換える。 * 母親が、淡々と処理するよう徹底する。 * A君の新しい活動を導入することで、不安定になりやすい自由時間を減らす。
14:00	勉強	勉強の手助け 学校のかばんの整理			
14:30	勉強	勉強の手助け 学校のかばんの整理			
15:10	水遊び、ボール遊び				
15:20	留守番	妹の迎え			一人で遊べる物を用意
15:30	おやつ 自由時間	帰宅後、おやつを出す 妹の幼稚園のかばんの整理			おやつ 絵本、手遊び、くすぐり、ビデオ鑑賞（母と一緒に）
16:00					
16:15					
17:00		洗濯物の取り込み			洗濯物の取り込み手伝い
17:30		夕食準備			夕食の支度（母と一緒に）
18:00	夕食	夕食			夕食
19:00	入浴	入浴			入浴
<p><経過・結果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・注意喚起として行った場合のおう吐について、過剰に反応せず、過剰に反応せず、淡々と処理するようになり母親が行動をした結果、注意喚起のおう吐は減少した。（10月20日） ・自由時間を減らし、母親と一緒に遊ぶ時間を設定したり、お手伝いの時間を設定したりすることで自己刺激の行動が減少した。（11月4日） ・おう吐は減少してきたものの、母親が以前のように過剰な反応をしてみようとしたことがあった。 ・一時的に行動は増える場合もあるが、過剰に反応せず、淡々と処理するようになり、学校と家庭で一貫した対応することを再確認した。（12月26日） ・おう吐はなくなった。（1月8日） → おう吐はない（2月13日） → おう吐はない（3月17日） 					

STEP 3 家庭支援計画

検討日：2003年 ○月○日 記入者：○○

支援を受ける人	現状（現在）	課題	対応・改善（支援内容）	具体的な支援の計画	
本人	能力	<ul style="list-style-type: none"> ・次の活動を実物で予告 ・△□○図形、写真のパターン弁別可能 ・課題が明確であれば着席行動可能 	<ul style="list-style-type: none"> ・写真と実物のマッチングを確実にする ・ごほうびを徐々に減らしていく 	<ul style="list-style-type: none"> ・認知、社会性、スキル面に關する学習活動の積み上げ 	
	行動	<ul style="list-style-type: none"> ・興味・関心の移り変わりが多く、動き回る ・要求はクレレン、サイン（食事場面に多い）家庭では実物を持ってくる ・おう吐 	<ul style="list-style-type: none"> ・着席して取り組めることを増やす ・コミュニケーションの表出がうまくできず、不満そうなどが多い ・おう吐を減らす 	<ul style="list-style-type: none"> ・一緒に活動することを増やす（かかわり遊び等） ・一貫したかかわりで、要求表現を確実にしていく ・スケジュールの調整 ・母親の対応の仕方の見直し 	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい活動の導入、注意喚起の方法の指導
父	環境	<ul style="list-style-type: none"> ・家：キーボード、ボールで遊ぶ。 ・○○屋に買い物（車でスーパーへ買い物） ・野比海岸へ遊びに行く 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭での過ごし方（時間の使い方）を整える ・利用できる地域資源の開発 	<ul style="list-style-type: none"> ・外出先を広げる ・家庭で遊んでいる内容を整理し、学習時間も含めたスケジュールを組み直す 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会資源の活用のための情報提供（公園、学校施設、学童保育等）
		<ul style="list-style-type: none"> ・親の厳格な態度が子どもにとって必要だと考えている ・ごほうびにはお菓子をあげることが多い 	<ul style="list-style-type: none"> ・パニックの時の対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭訪問での話し合い 	<ul style="list-style-type: none"> ・療育のポインントなど、母親と担任で話し合ったことを、父親向けに連絡帳で伝えていく
母	<ul style="list-style-type: none"> ・受容することで、子どもの困った行動に対応しようとする努力している ・困った行動を何とか改善したいと思っている ・本児の行動上の問題に過剰に反応してしまう 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもとのかかわり方が分からない（遊び方・時間の過ごし方） ・将来の子ども像を思い描けないことから今何をしたらよいか迷う ・一貫した子どもの接し方の形成 	<ul style="list-style-type: none"> ・話を聞き、適切なアドバイスと励ましが必要である ・家庭内での過ごし方の具体案を提案 ・子どもとの関わり合いのヒントを提案していく 	<ul style="list-style-type: none"> ・外部の専門家による相談 ・直接支援（療育方法の提案） 	
妹	<ul style="list-style-type: none"> ・兄のことはとても好きだが、時々、兄妹けんかをしてしまう ・母親に甘えたい気持ちを表すことがある 	<ul style="list-style-type: none"> ・声を出して怒る 	<ul style="list-style-type: none"> ・兄妹で一緒にできることを探す 		

国立久里浜養護学校（2003年）